

令和 8 年度 シラバス

教科名 芸術

愛媛県立宇和高等学校

音楽 I

愛媛県立宇和高等学校

教 科	芸術	単位数	2		対象	1年生 1年次		
使用教科書	MOUSA1 (教育芸術社)		副教材等		履修		必修・選択	
授業の概要			到達目標		履修の条件・進路			
歌唱・器楽等各分野の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現力と鑑賞の能力を伸ばすことを目的とする。			音楽を愛好する心情と感性を高める。 各分野の活動を通して、積極的な自己表現ができるようになる。 幅広く音楽に触れることで、文化の多様性を認めるしなやかさをもたせる。		条件は無し。 音楽系の大学・短大・専門学校等に進学を希望する人は履修することが望ましい。			
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容				メ モ	
	一 学 期	歌唱 器楽 (ギター) 鑑賞	・校歌 (手話) ・Ave Maria 他 ・ギターの基礎 ・日曜日よりの使者 ・交響曲第9番より ・西洋音楽				学 習 の 成 果 を 学 園 祭 で 発 表 する。	
		二 学 期	課題研究 歌唱 器楽 (ギター)	・レポート発表 ・変わらないもの ・ギターの基礎 ・旋律練習 ・アンサンブル				
			三 学 期	器楽・創作 (箏) 歌唱	・箏の基礎 ・さくら変奏曲 ・創作活動 ・Caro mio ben			
学 習 方 法	【授業】主体的・積極的に表現すること、鑑賞することを心がけましょう。 【復習】授業で習った曲は、日常生活でよく使われています。授業外でも音楽に耳を傾けましょう。 【予習】特にありません。							
評 価 の 観 点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、創造的に表現しているか。		音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら解釈したり、価値を考えたりして理解を深め、表現できる。		音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。			
評 価 方 法	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。		1 学期	2 学期	3 学期	年度末		
			(評価方法) 実技試験、音楽ノートなどによる到達目標の達成度や授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3 学期の平均		
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)								

音 楽 II

愛媛県立宇和高等学校

教 科		芸 術		単位数	2	対象	普通科 2 年 I 型	
使用教科書		MOUSA2（教育芸術社）			副教材等		履修	必修修・選択
授業の概要				到達目標		履修の条件・進路		
音楽の諸活動を通して、音楽を愛好する心情と感性を高め、音楽文化についての理解を深め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばすことを目的とする。				音楽を愛好する心情を持ち、自ら進んで様々な音楽文化について知ろうとするようになる。 自分で感受したものを、個性を生かしながら積極的・主体的に表現することができるようになる。		音楽Ⅰを履修した者。 音楽系の進路を考えている人は履修することが望ましい。		
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名		学 習 内 容			メモ	
	1 学期	器楽 (ドラム) 鑑賞		・ギターの基礎 ・弾き方 ・弾き歌い ・テスト ・ミュージカル「オペラ座の怪人」				
	2 学期	楽典 創作 歌唱		・ソルフエージュ ・テスト ・創ミュージカル ・外国語の歌 ・Top of the world 他			※学園祭で発表	
	3 学期	楽典 器楽 (ギター)		・和音の構成 ・コードの基本奏法 ・弾き歌い				
学習方法		【授業】主体的・積極的に表現すること、鑑賞することを心がけましょう。 【復習】授業で習った曲は、日常生活でよく使われています。授業外でも音楽に耳を傾けましょう。 【予習】特にありません。						
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、創造的に表現しているか。			音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら解釈したり、価値を考えたりして理解を深め、表現できる。			音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。	
評価方法	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。			1 学期	2 学期	3 学期	年度末	
				(評価方法) 実技試験、音楽ノートなどによる到達目標の達成度や授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3 学期の平均	
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)								

音 楽 III

愛媛県立宇和高等学校

教 科	芸 術		単位数	2		対象	普通科3年I型	
使用教科書	Joy of Music（教育芸術社）			副教材等		履修		必修修・選択
授業の概要				到達目標		履修の条件・進路		
音楽の諸活動を通して、音楽を愛好する心情と感性を高めるとともに、音楽文化についての理解を深め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばすことを目的とする。				音楽を愛好する心情を持ち、自ら進んで様々な音楽文化について知ろうとするようになる。 自分で感受したものを、個性を生かしながら積極的・主体的に表現することができるようになる。		音楽Ⅰを履修した者。 音楽系の進路を考えている人は履修することが望ましい。		
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名		学 習 内 容			メモ	
	1 学 期	器楽・創作 （ドラム） 鑑賞 鑑賞		・ドラムの基本奏法 ・4ビートから16ビート ・様々なフィルイン ・フィルインを創作する ・テスト ・他国のポップス ・ビートルズについて ・ミュージカル「レ・ミゼラブル」				
	2 学 期	課題研究 器楽 歌唱 鑑賞		・レポート発表 ・器楽アンサンブル ・「Nina」「Beautiful Dreamer」他 ・歌唱テスト ・世界の音楽めぐり			※学園祭で発表	
	3 学 期	歌唱		・卒業写真				
学習方法	【授業】自分の感性を生かした表現を積極的に行いましょう。 【復習】授業外でも音楽文化にかかわりましょう。 【予習】特にありません。							
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、創造的に表現しているか。		音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら解釈したり、価値を考えたりして理解を深め、表現できる。			音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。		
評価方法	※上記の3つの観点を基に、各学期ごとに評価する。		1学期	2学期	3学期	年度末		
			(評価方法) 実技試験、音楽ノートなどによる到達目標の達成度や授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3学期の平均		
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)								

美術 I

愛媛県立宇和高等学校

教 科		芸術		単位数	2	対象	1 年次	
使用教科書		高校生の美術 1（日本文教出版）		副教材等		履修		必修修・選択
授業の概要				到達目標		履修の条件・進路		
幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現力と鑑賞の能力を伸ばすことを目的とする。				美術を愛好する心情と感性を高める。 デッサン、色彩、構成などの基礎的技能を身につける。 創造的な表現力と鑑賞の能力を伸ばす。		条件はありません。 美術系の大学・短大・専門学校等に進学を希望する人は履修するのが望ましい。		
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名		学 習 内 容			メ モ	
	1 学 期	文字とデザイン 書体の基本 暮らしを彩る 夢と現実のはざま 視覚化されるメッセージ 鑑賞		・ 明朝体の特徴 ・ 創作文字（模様のデザイン） ・ トレースの技法 ・ シュルレアリスムの技法 ・ 各種ポスターの鑑賞 ・ アクリル絵の具の使い方 ・ 色彩・配色の知識 ・ 鑑賞会				
	2 学 期	静物デッサン 鉛筆デッサン 内面を見つめて 鑑賞		・ 鉛筆の削り方、使い方 ・ 形、空間、陰影を捉える ・ 自画像の構図を考える ・ 肌の色、影の色の工夫 ・ 明暗の工夫 ・ 背景の工夫 ・ 作品鑑賞			※完成した作品は、校内展示をします。 ※学園祭に美術選択生として作品を出品します。	
	3 学 期	存在感を感じ取る 鑑賞		・ 首振り人形のアイデア ・ 骨組み、肉付け ・ 頭部の立体感の表現 ・ 細部の工夫 ・ 着色の工夫 ・ 作品鑑賞				
	学習方法							
【授業】様々な素材や画材に触れることを楽しみ、アイデア豊かに制作していきましょう。 【復習】自分のイメージを追求できたか、制作の姿勢を省みましょう。 【予習】常にイメージを膨らませながら次時の作業内容を把握しておきましょう。								
評 価 の 観 点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
	・ 造形的な特徴を基に、イメージや作風、様式などを捉えている。 ・ 主題を追求する技術を身に付けている。			・ 感じたこと、考えたこと、想像などから主題を生成している。 ・ 表現形式の特性を生かし、創造的な表現の構想を練っている。			・ 美術に関心を持ち、主体的に表現の創造活動に取り組もうとしている。	
評 価 方 法	1 学期			2 学期		3 学期		年度末
	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。			（評価方法） 作品、授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3 学期の平均	
到達目標に対する自己評価 （A・B・Cの3段階）								

美術Ⅱ

愛媛県立宇和高等学校

教 科	芸術		単位数	2		対象	普通科2年Ⅰ型		
使用教科書	高校美術2（日本文教出版）			副教材等		履修		必修・選択	
授業の概要			到達目標			履修の条件・進路			
美術の創造的な諸活動を通して、自然や自己、社会などを深く見詰め表現を追求する喜びを深く味わうとともに、感性を高め、主体的で個性豊かな美術の能力を高めることを目的とする。			美術を愛好する心情と感性を高める。 多様な表現形式や材料・技法を活用し、創造的で主体的な表現を追求する。 個々が持っている様々な表現力に気づき、生活の中に美術を取り入れようとする意識を持つ。			美術Ⅰ選択者に限る。 美術系の大学・短大・専門学校等に進学を希望する人は履修するのが望ましい。			
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容					メ モ	
	1 学期	表現とは何か 錯覚による不思議な世界 生物を空想して 鑑賞	● 美術Ⅱについて ● 鉛筆によるトリックアートの世界 ● 線折面のデザイン ● 空想上の生物アイデアスケッチ ● 変形と台紙のデザイン ● トレース～着色 ● 作品の完成と鑑賞					※完成した作品は、校内展示します。	
	2 学期	奥行や空間を捉える アニメーションで伝える 鑑賞	● 透視図法 ● 校内のスケッチと写真 ● 構図や遠近法の工夫 ● 水彩画の表現 ● ゾートロープのアイデア ● アイデア～下描き ● 着色 ● 作品の完成と鑑賞						※学園祭に美術選択生として作品を出品します。
	3 学期	身近なもので生み出す 鑑賞	● 彫刻のアイデア ● 線材の形づくり ● 塊材の形づくり ● 台座の工夫 ● 作品の完成と鑑賞						
学習方法	【授業】様々な素材や画材に触れることを楽しみ、アイデア豊かに制作していきましょう。 【復習】自分のイメージを追求できたか、制作の姿勢を省みましょう。 【予習】常にイメージを膨らませながら次時の作業内容を把握しておきましょう。								
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
	● 造形的な特徴を基に、イメージや作風、様式などを捉えている。 ● 主題を追求していく技術を身に付けている。		● 感じたこと、考えたこと、想像などから主題を生成している。 ● 表現形式の特性を生かし、創造的な表現の構想を練っている。			● 主体的に絵画・彫刻の表現の創造活動に取り組もうとしている。			
評価方法	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。		1 学期	2 学期	3 学期	年度末			
			(評価方法) 作品、授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3 学期の平均			
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)									

美術Ⅲ

愛媛県立宇和高等学校

教 科		芸術		単位数	2		対象	普通科 3年 I 型	
使用教科書		高校生の美術 3（日本文教出版）		副教材等				履修	必修・選択
授業の概要				到達目標			履修の条件・進路		
美術の創造的な諸活動を通して、自然や自己、社会などを深く見つめ表現を追求する喜びを深く味わうとともに、感性を高め、主体的で個性豊かな美術の能力を高めることを目的とする				美術を愛好する心情と感性を高める。 多様な表現形式や材料・技法を活用し、創造的で主体的な表現を追求する。 個々が持っている様々な表現力に気づき、生活の中に美術を取り入れようとする意識を持つ。			美術Ⅰ選択者に限る。 美術系の大学・短大・専門学校等に進学を希望する人は履修するのが望ましい。		
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名		学 習 内 容				メ モ	
	一 学 期	美しいとは何か 興味のあることを描く 名画から受けるインスピレーション 鑑賞		・ 美術Ⅲについて ・ 透視図法 ・ 身近なものをスケッチする ・ 着色 ・ アイデア～変形 ・ 背景の工夫と着色 ・ 作品の完成と鑑賞				※完成した作品は、校内展示します	
		継承と創造 鑑賞 ものと場所による表現		・ 黄金テンペラ画のアイデア ・ 明暗分けとトレース ・ ハッチングの技法 ・ 緑、赤、黄色を使った書き込み ・ 背景の工夫 ・ 作品の完成と鑑賞 ・ 木製アクセサリィのアイデア ・ 切断と接着				※学園祭に美術選択生として作品を出品します	
		三 学 期 鑑賞		・ 研磨 ・ レジン工程 作品の完成と鑑賞					
学習方法		【授業】様々な表現形式や技法を習得・活用・展開し、個性豊かにじっくり制作していきましょう。 【復習】自分のイメージに向けて真摯に取り組めたか、毎時省みましょう。 【予習】より良い作品になるようにイメージを膨らませ、次時にやるべき作業を確認しましょう。							
評 価 の 観 点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	造形的な特徴を基に、イメージや作風、様式などを捉えている。 主題を追求していく技術を身に付けている。			感じたこと、考えたこと、想像などから主題を生成している。 表現形式の特性を生かし、創造的な表現の構想を練っている。			主体的に絵画・彫刻の表現の創造活動に取り組もうとしている。		
評 価 方 法				1 学期	2 学期	3 学期	年度末		
	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。			(評価方法) 作品、授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3 学期の平均		
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)									